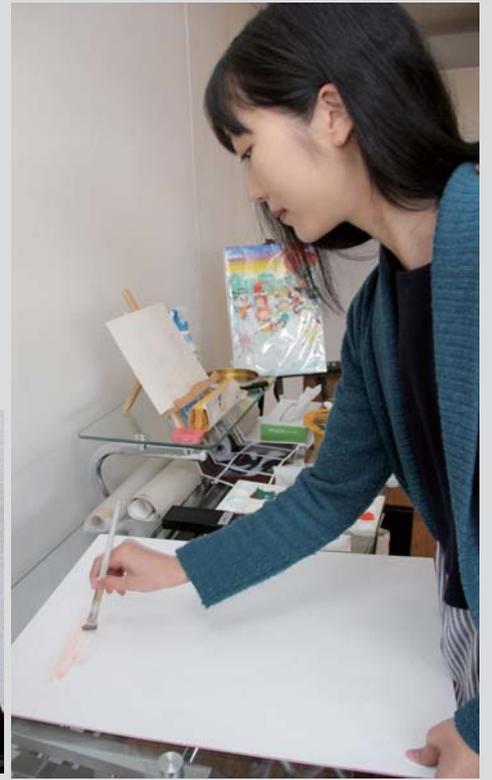


町の魅力をイラストで伝える

しんもり はるな
新森 春菜さん



新森さんの描いたイラストの一部です。



町内で家業を手伝いながら、イベントポスターや冊子などのイラストを手掛けている新森春菜さんにお話を伺いました。

父の絵に憧れ

幼少のころ、私のリクエストにこたえて父がアニメのキャラクターを描いてくれました。とても上手だったのを覚えています。そんな父の影響を受けたのか物心がついた時には、絵を描くのが大好きでした。小学3年で初めて同じクラスになった女の子がいて、その子もマンガが上手で共通の



趣味だったこともあり、すぐに友達になりました。今でも仲良しで休日には一緒にイラストを描く親友です。私は中学・高校でも美術部に入学し、将来はデザイナーになることを夢に、デザインの専門学校に進みました。

目で印象が変わる

動物や人物画を描くことが多いのですが、一番気をつけているのは目です。ほんの少しでも位置や形がずれてしまうと印象がかなり変わってしまいます。人物の明るい表情を描いたつもりが目の印象で暗く見えたりするので、納得できるまで何度も描き直すこともあります。いかに生き生きした表情にできるかが難しいです。特に人物で顔の表情を明るく見せるには、肌に赤色を使用したり、光と影をつけるとよりリアルなイラストになります。1枚のイラストを描き上げるには、用紙の大きさが異なりますが、デザインの立案から完成まで早ければ1週間、大きなものだと1カ月

程度かかるときもあります。また、色紙を切り合わせてイラストを立体的に表現する手法もあります。手間はかかりますが、完成したときの喜びは大きいですね。

まちの魅力をイラストで

町民の1人として、もっと当別町を多くの人に知って欲しいという思いがあります。私ができることとして、今年は夏至祭や地元のお祭りなどのポスター原画を描く機会にも恵まれました。これからもまちの魅力をイラストで伝えていけるように、自身の技術と感性を磨いていきたいと思います。

「1月号の表紙をお願いしたい」と相談したところ、快諾してくれた新森さん。本当にありがとうございました！ なお、新森さんが描いた作品を1月6日(水)から15日(金)まで役場1階に展示しますので、ぜひご覧ください。

(12月4日取材)